

第2次にのみや男女共同参画プラン」 アンケート調査結果

平成29年7月

1. 調査概要

1) 調査目的

本アンケート調査は、本町の取り組みに対する町民の評価を把握する目的で実施した。

2) 調査方法

- 調査票は郵送により配布し、返信用封筒による郵送回収を行った。

3) 調査期間

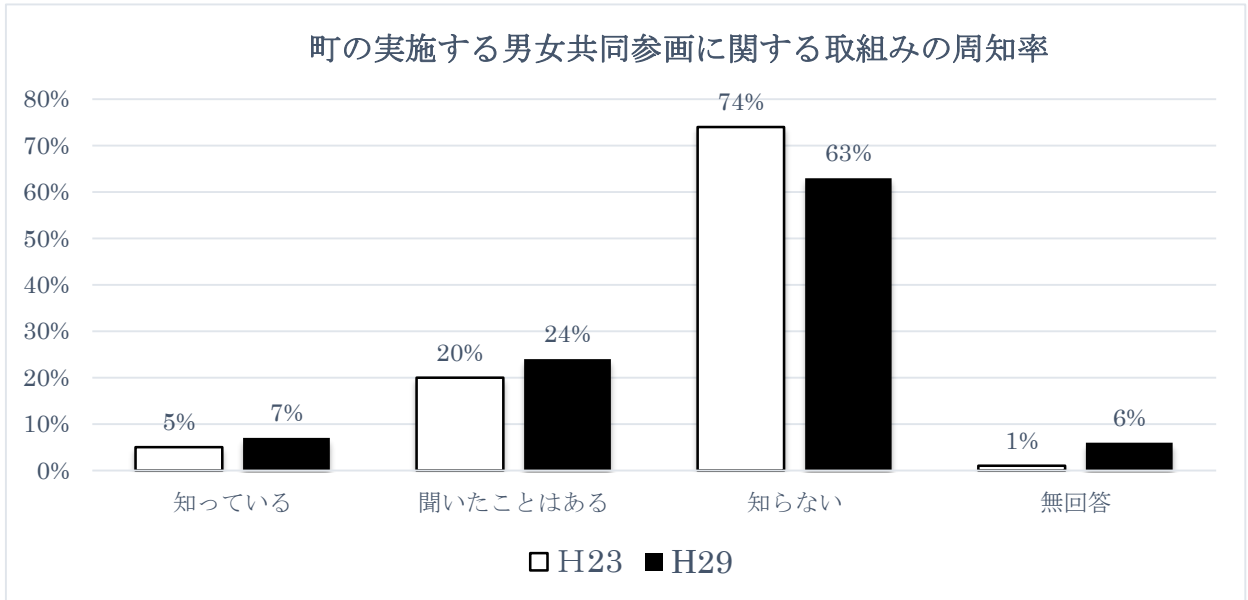
- 平成 29 年 4 月 20 日（木）～平成 29 年 5 月 11 日（木）

4) 調査対象及び回収状況

- 対象者：1,000 名
平成 29 年 4 月 10 日現在の住民基本台帳から、満 20 歳以上の男女 5 世代（20 代、30 代、40 代、50 代、60 代以上）より、年代ごとの人数を均等に 1,000 名を無作為抽出。
- 回収数：351 票（35.1%）
- 調査票不到達数：5 名（理由：宛名不明）
 - 〈内訳〉 20 代 男性：3 名（緑が丘、二宮、山西）
 - 20 代 女性：1 名（二宮）
 - 60 代以上 男性：1 名（川匂）

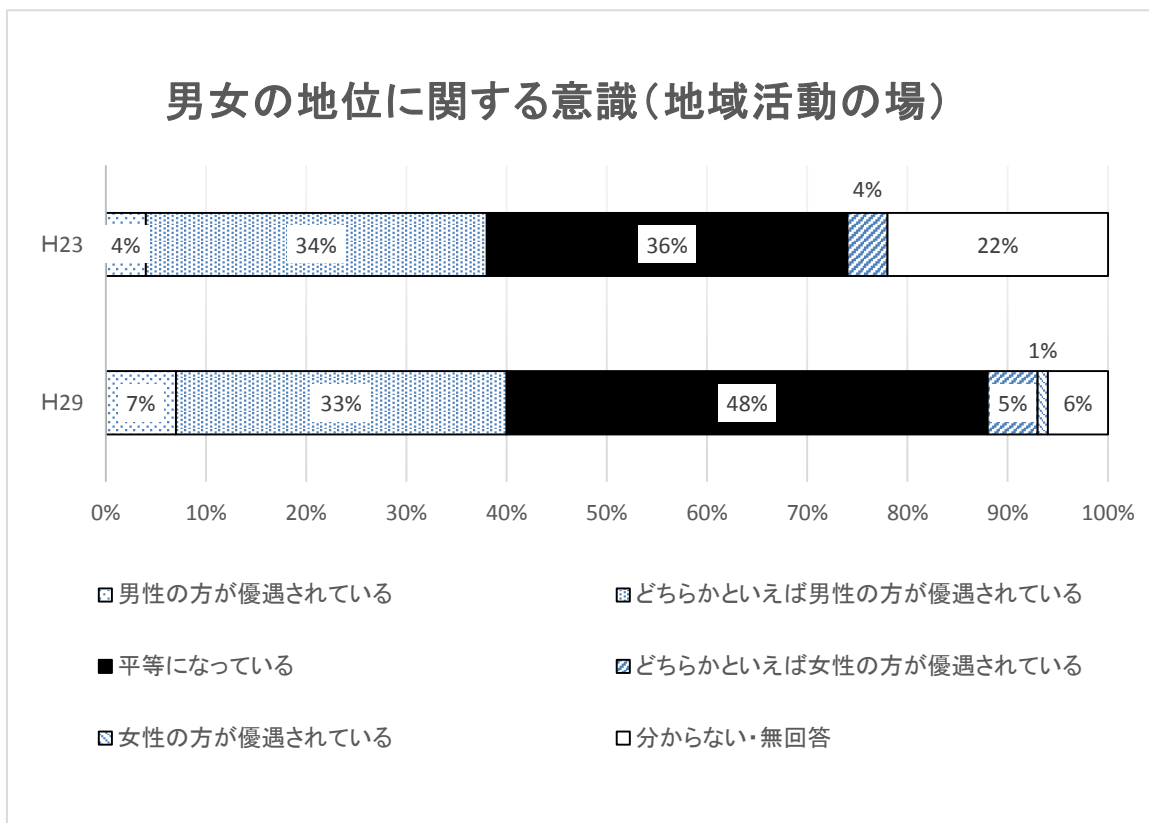
問1 町の実施する男女共同参画の取り組みについて

- 町が実施している男女共同参画に関する各種取り組みについて、「知っている」、「聞いたことはある」と回答した者の合計が平成23年度25%であったのに対し、平成29年度は、31%となった。



問2 ①男女の地位に関する意識（地域活動の場）について

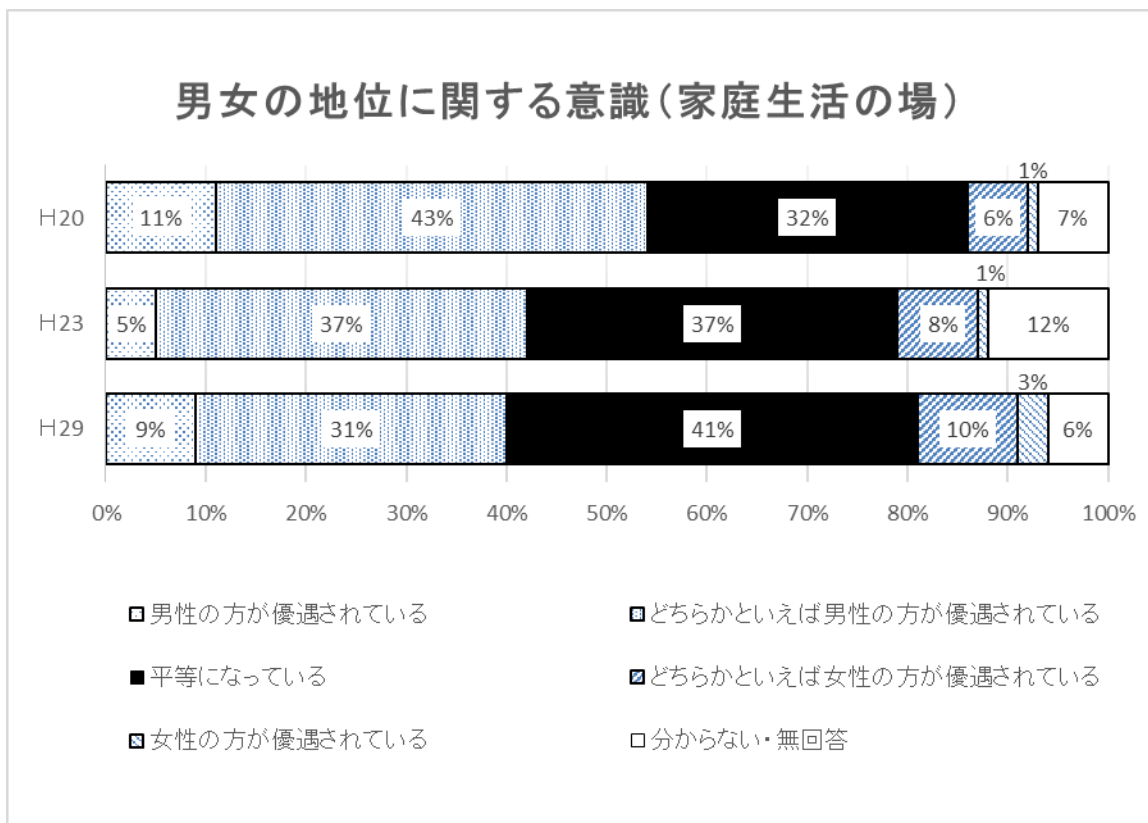
- ・ 「平等になっている」と回答した者が平成23年度は36%であったのに対し、平成29年度は48%と増加した。
- ・ 「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した者の合計も平成23年度は38%であったのに対し、40%と増加した。



※平成29年度は回答項目「わからない」を設定していない。
 （以下、設問同じ）

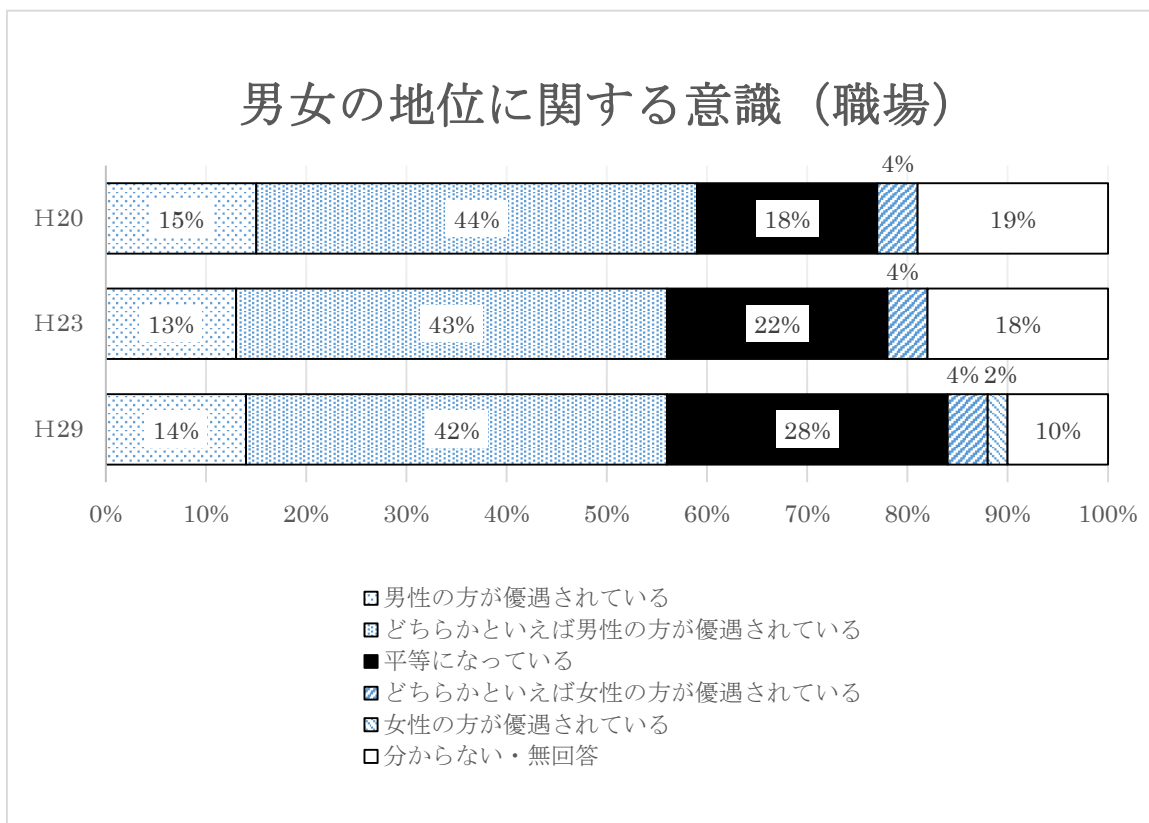
問2 ②男女の地位に関する意識（家庭生活の場）について

- ・ 「平等になっている」と回答した者が平成20年度は32%、平成23年度は37%であったのに対し、平成29年度は41%と増加した。
- ・ 「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した者の合計が平成20年度は54%、平成23年度は42%であったのに対し、平成29年度は40%と減少した。



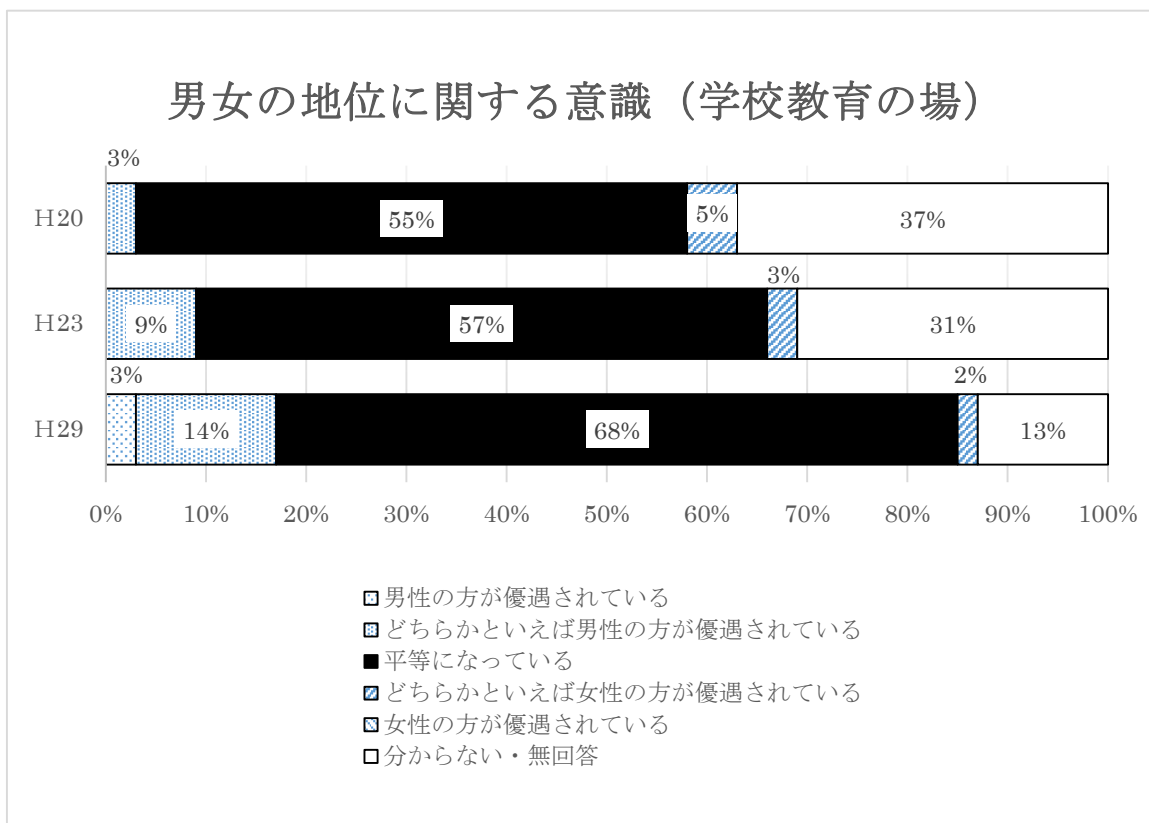
問2 ③男女の地位に関する意識（職場）について

- ・ 「平等になっている」と回答した者が平成20年度は18%、平成23年度は22%であったのに対し、平成29年度は28%と増加した。
- ・ 「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した者の合計が平成20年度は59%、平成23年度及び平成29年度は56%と変化しなかった。



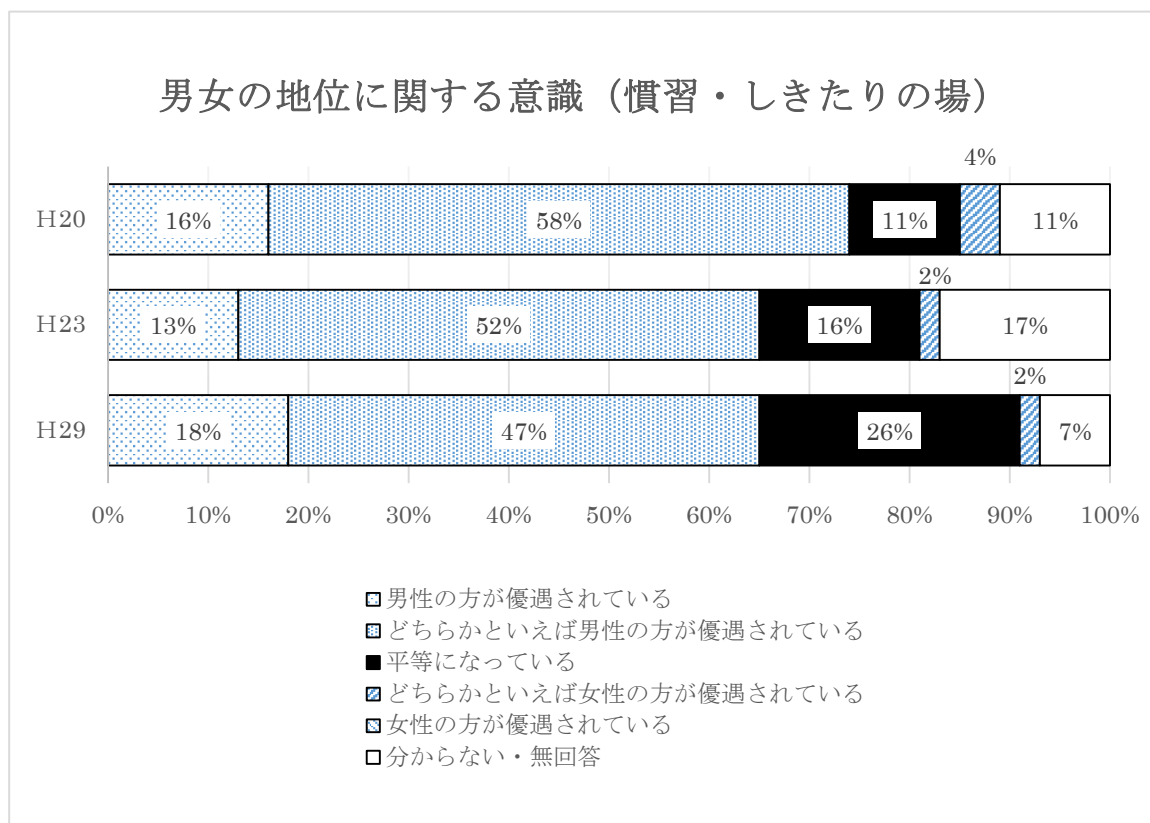
問2 ④男女の地位に関する意識（学校教育の場）について

- ・ 「平等になっている」と回答した者が平成20年度は55%、平成23年度は57%であったのに対し、平成29年度は68%と増加した。
- ・ 「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した者の合計も平成20年度は3%、平成23年度は9%であったのに対し、平成29年度は17%と増加した。



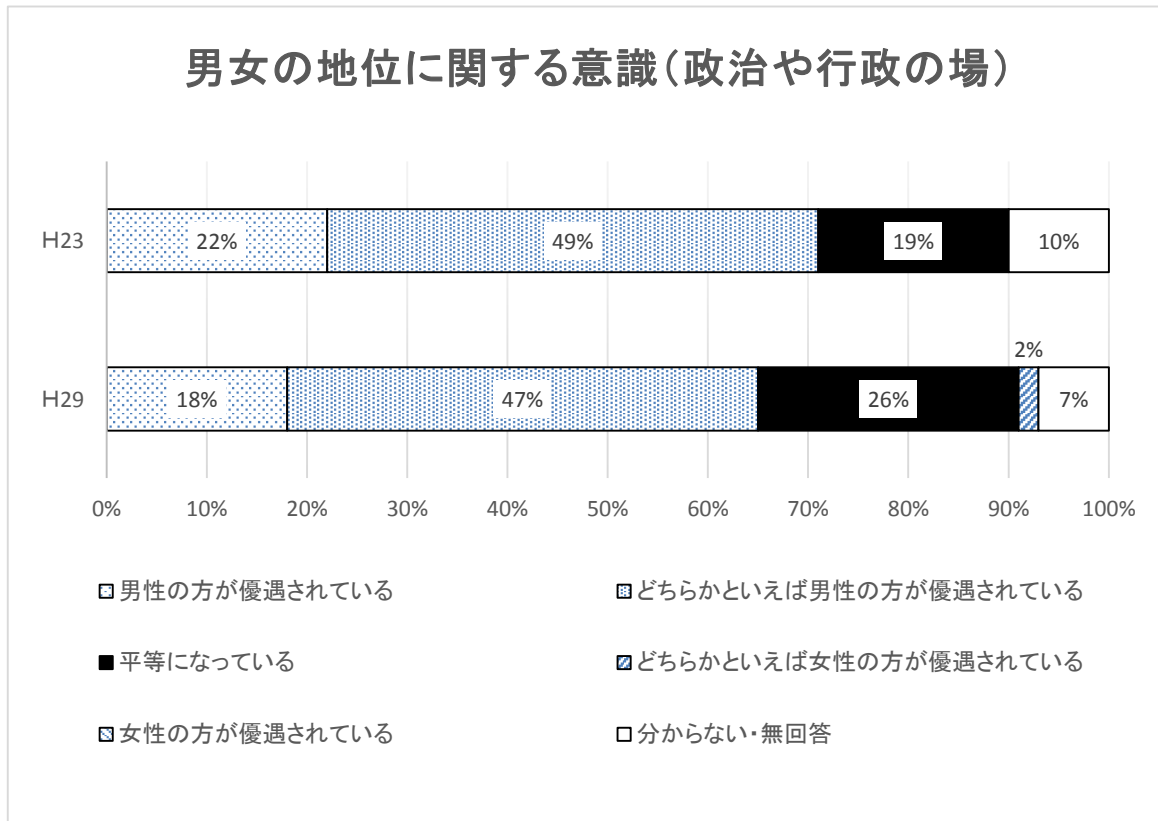
問2 ⑤男女の地位に関する意識（慣習・しきたりの場）について

- ・ 「平等になっている」と回答した者が平成20年度は11%、平成23年度は16%であったのに対し、平成29年度は26%と増加した。
- ・ 「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した者の合計が平成20年度は74%、平成23年度及び平成29年度は65%と変化しなかった。



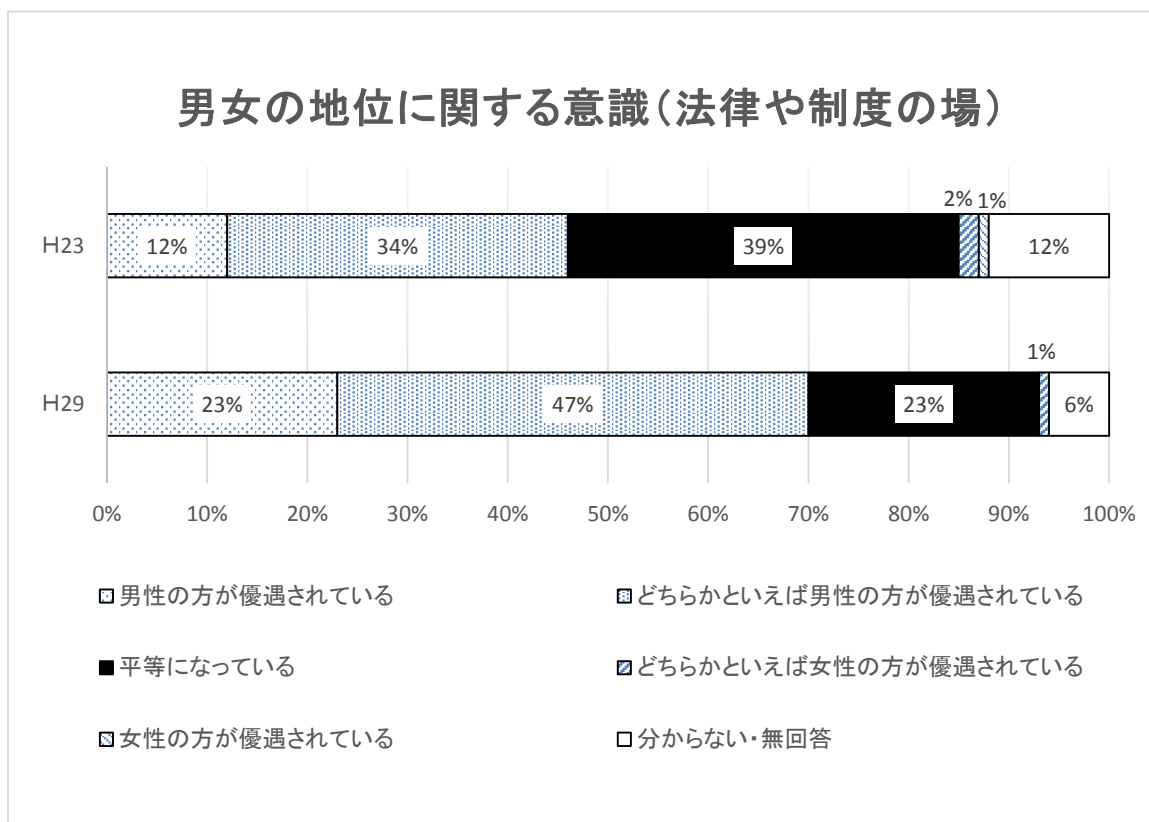
問2 ⑥男女の地位に関する意識（政治や行政の場）について

- ・ 「平等になっている」と回答した者が平成23年度は19%であったのに対し、平成29年度は26%と増加した。
- ・ 「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した者の合計が平成23年度は71%であったのに対し、平成29年度は65%と減少した。



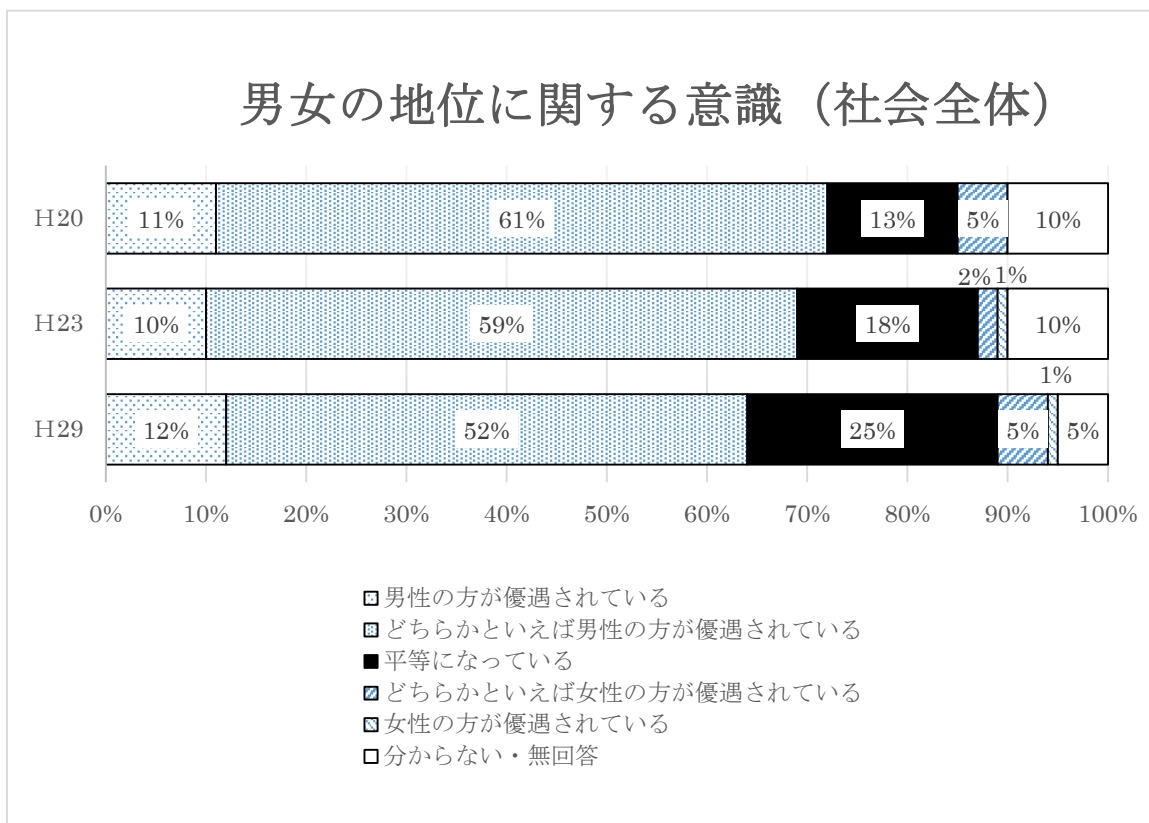
問2 ⑦男女の地位に関する意識（法律や制度の場）について

- ・ 「平等になっている」と回答した者が平成23年度は39%であったのに対し、平成29年度は、23%と減少した。
- ・ 「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した者の合計が平成23年度は46%であったのに対し、平成29年度は70%と増加した。



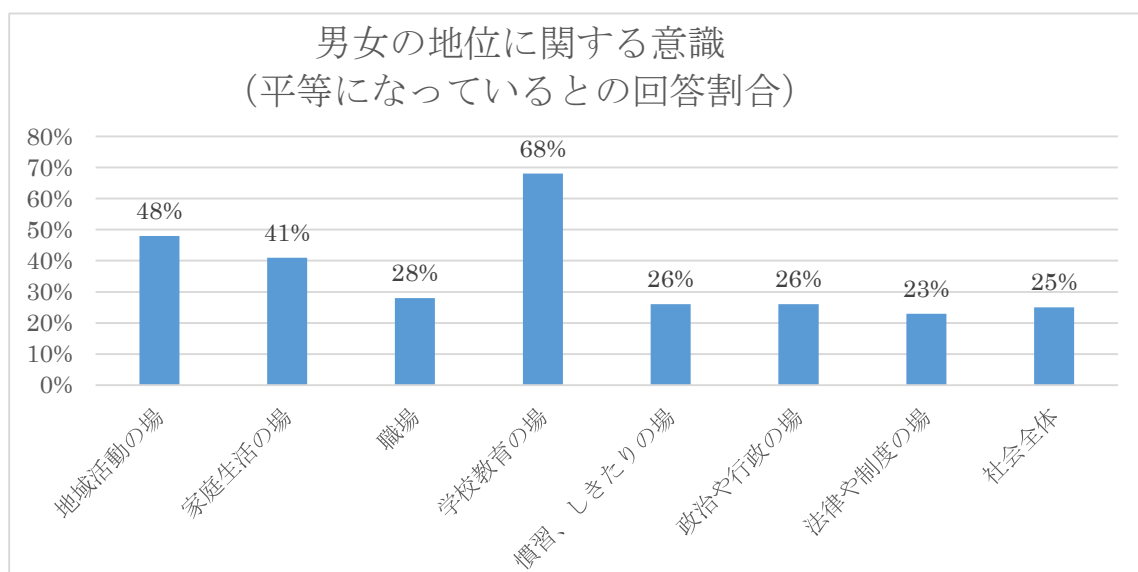
問2 ⑧男女の地位に関する意識（社会全体）について

- ・ 「平等になっている」と回答した者が平成20年度は13%、平成23年度は18%であったのに対し、平成29年度は25%と増加した。
- ・ 「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した者の合計が平成20年度は72%、平成23年度は69%であったのに対し、平成29年度は64%と減少した。



男女の地位に関する意識調査において、「平等になっている」と回答した割合が最も多かったのは、「学校教育の場」で68%でした。

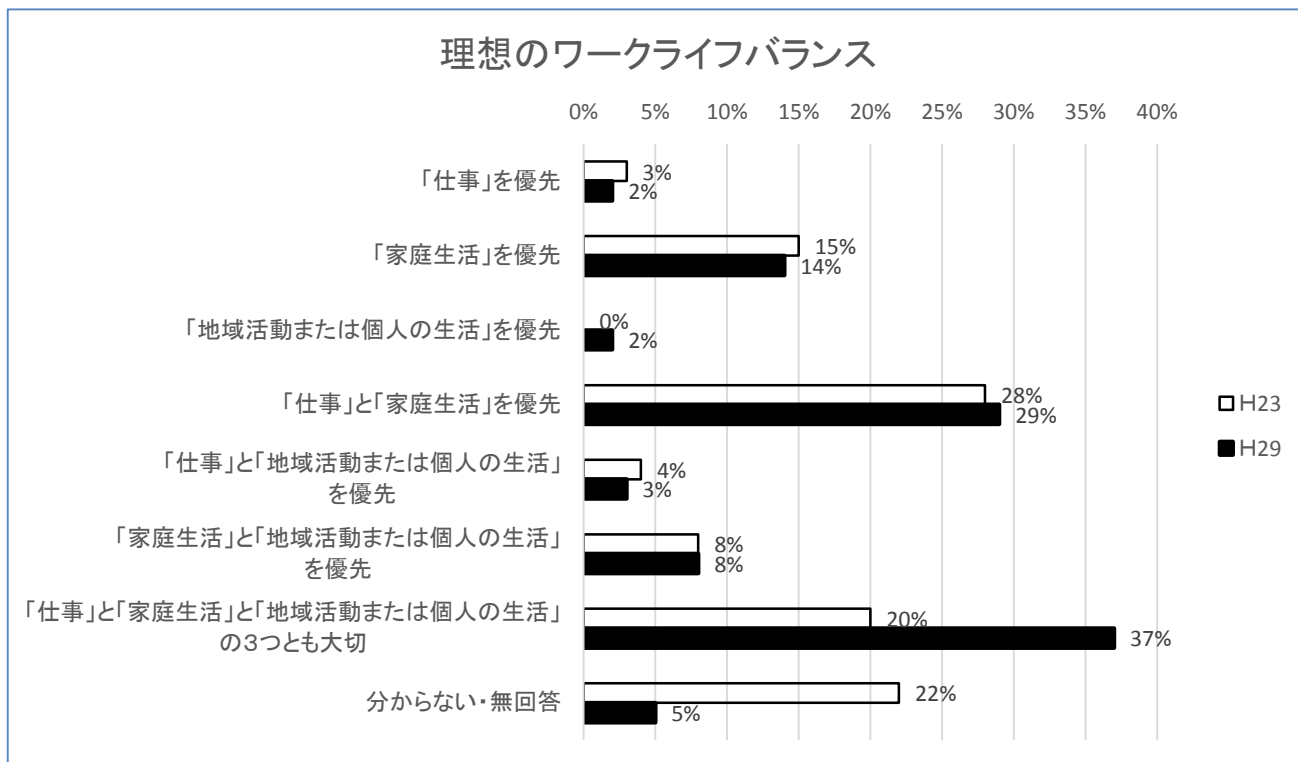
一方、最も少なかったのが、「法律や制度の場」で23%でした。



問3 (1) 仕事と家庭の両立について

【理想のワーク・ライフ・バランス】

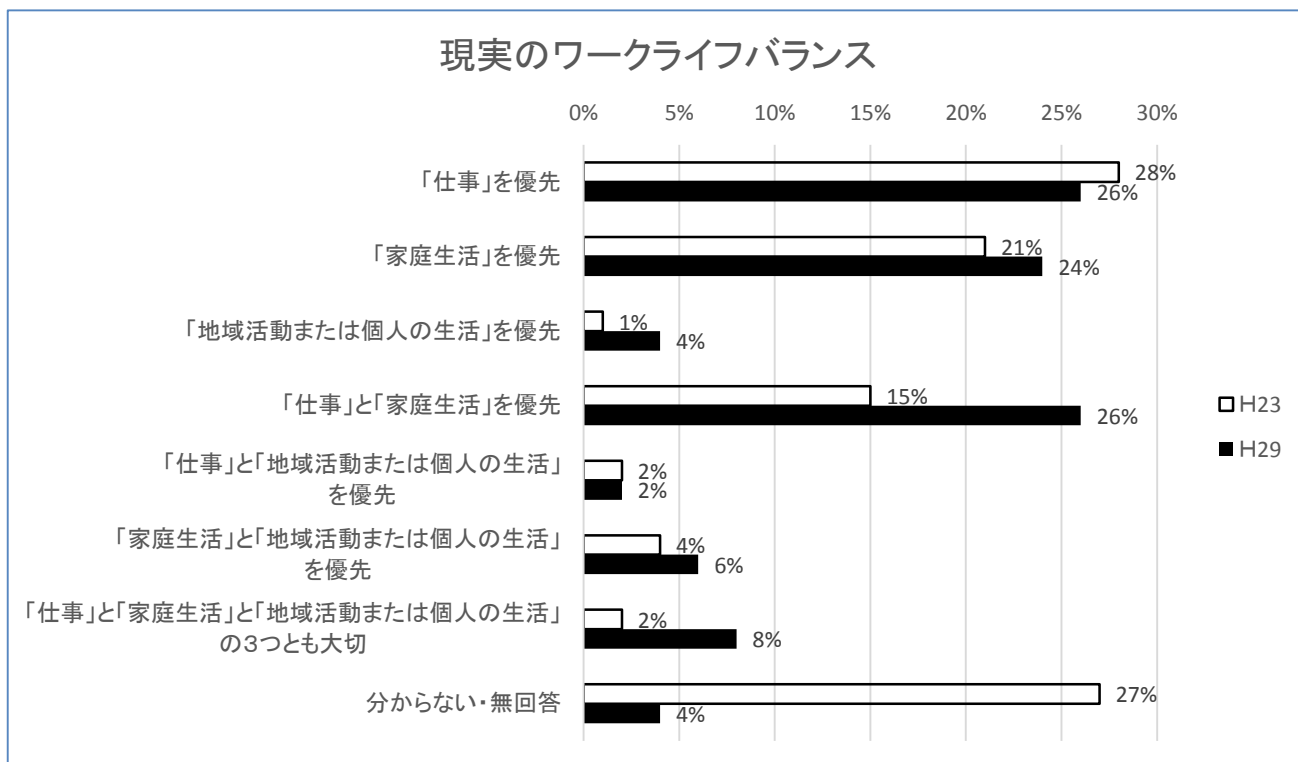
- 平成23年度は、「仕事」と「家庭生活」を優先するという回答が28%を占め最も多かったのに対し、平成29年度は、「仕事」と「家庭生活」を優先するという回答が引き続き29%を占めたほか、「仕事」と「家庭生活」と「地域活動または個人の生活」を優先するという回答が37%を占め最も多くなった。



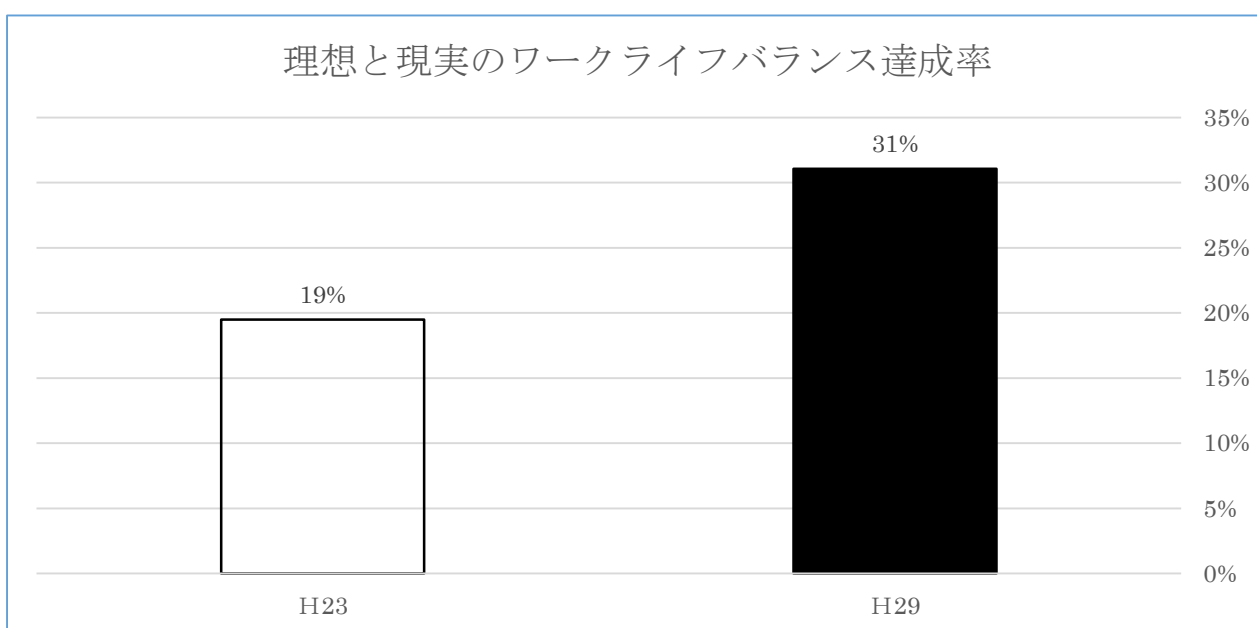
問3 (2) 仕事と家庭の両立について

【現実のワーク・ライフ・バランス】

- 平成23年度は、「仕事」を優先しているという回答が28%を占め最も多かったのに対し、平成29年度は「仕事」を優先しているという回答が引き続き26%を占めたほか、「仕事」と「家庭生活」を優先しているという回答も26%を占めた。

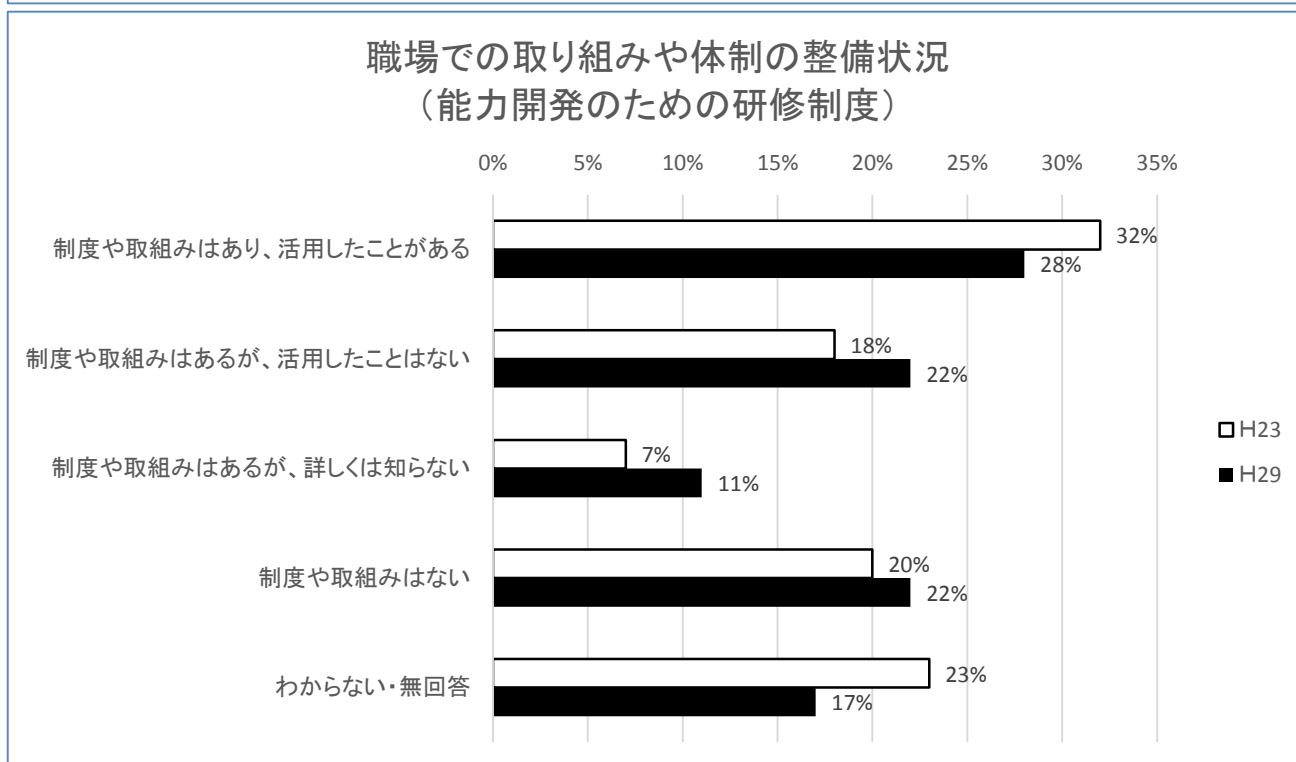
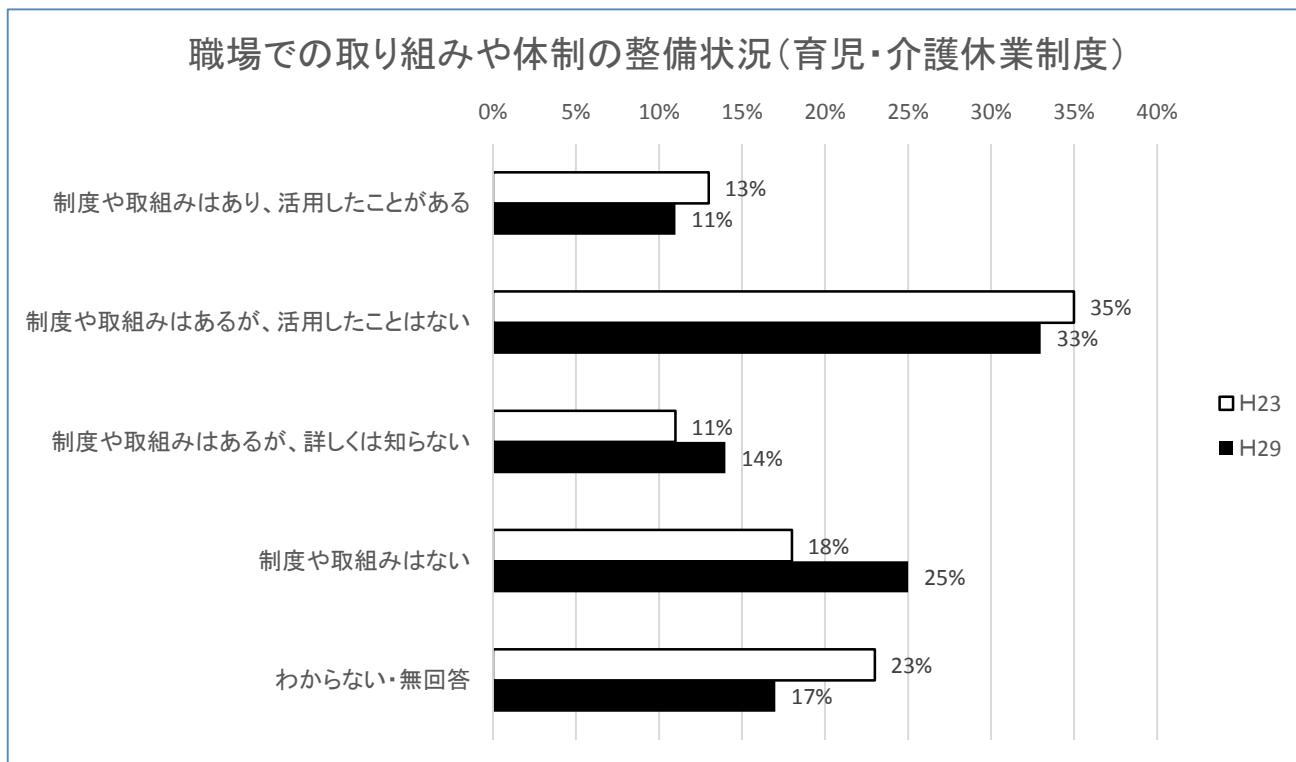


理想と現実が一致している者の割合は、平成23年度の19%から12ポイント増加し、平成29年度は31%となった。

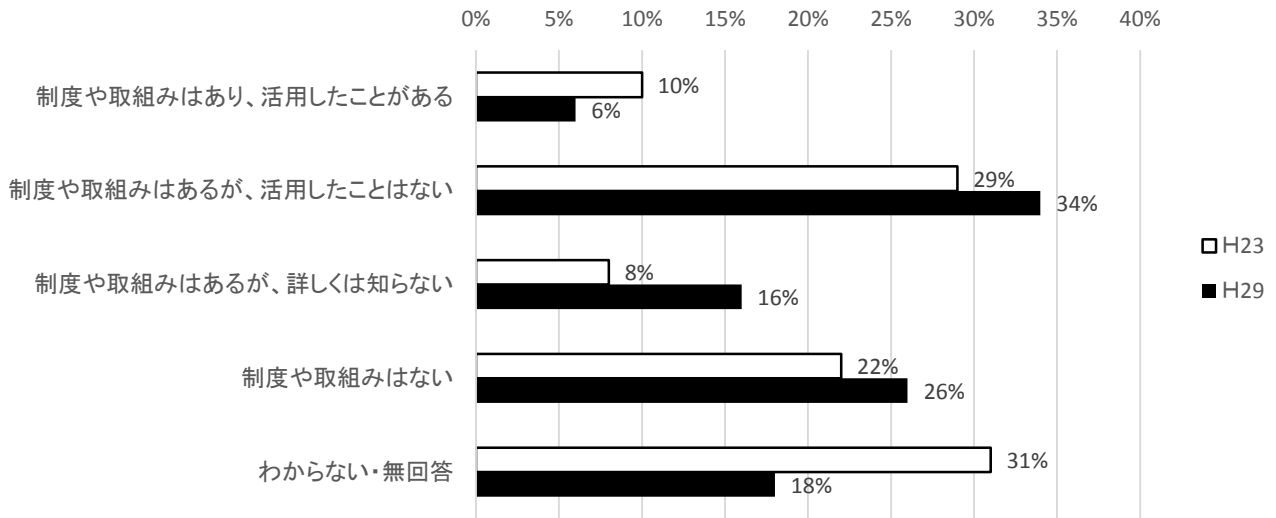


問4 働く場における男女共同参画について

- ・ 育児・介護休業制度、能力開発のための研修、セクシュアルハラスメント防止策に対する取組みがないとの回答が25%、22%、26%となり、平成23年度より増加した。
- ・ また、制度や取組を活用したことがあるとの回答は、すべての項目において平成23年度より減少した。

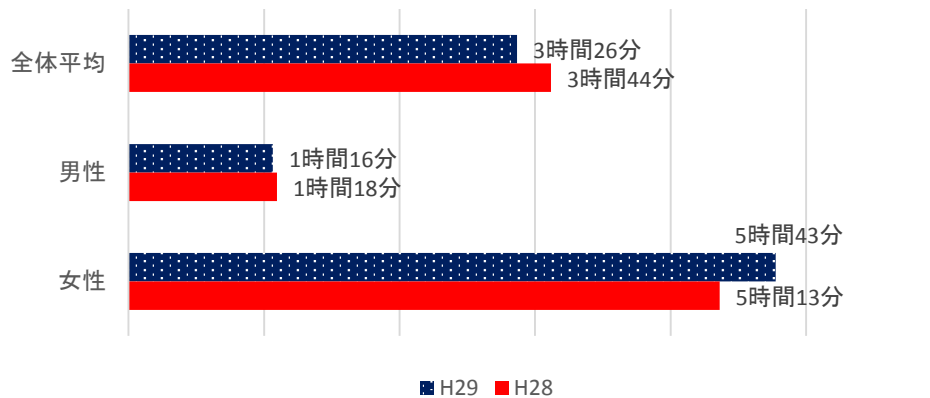


職場での取り組みや体制の整備状況 (セクシュアル・ハラスメント防止策)

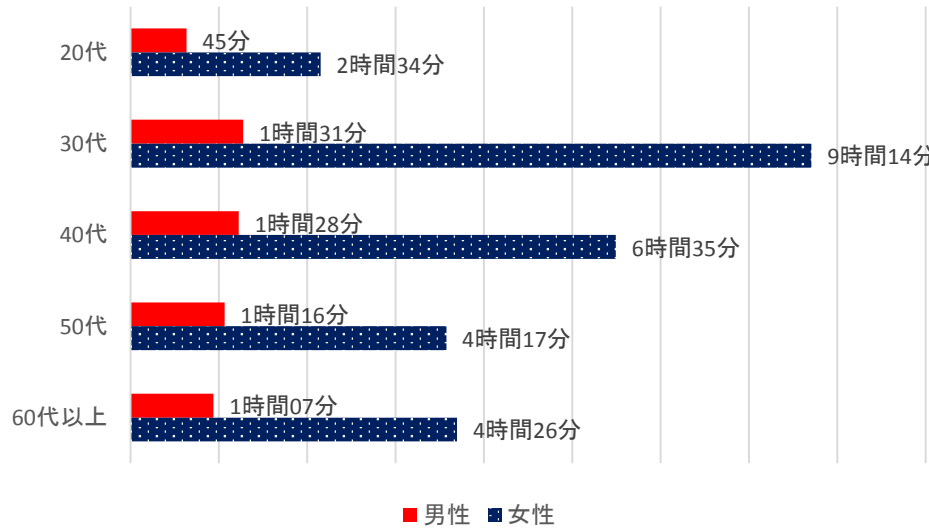


(参考) 子育てと仕事の両立について (総合戦略アンケートより)

- 1日のうち家事や育児にかかる時間の全体平均は、3時間26分であった(回答者の男女比は、男性が41.0%に対し、女性が56.8%)。
- 男女別に見ると、男性の平均時間が1時間16分、女性の平均時間が5時間43分であった。



- 年代別・男女別に見ると、30代女性が9時間14分と最も長く、次いで、40代女性の6時間35分と、子育て世代の女性で長い。一方、最も時間が短いのは、20代男性の45分であった。



- 家事や育児にかかる時間の平均は、年代、性別を問わず、休日の方が長い。
- 特に、40代男性は、平日に比べ、休日の家事や育児にかかる時間の平均が約4.5倍であった。

